

保護者各位

新型コロナウイルス流行下における
真明こども園の教育・保育のガイドライン(初版)

真明こども園

現在認定こども園に対しては、文科省からは「学校再開に向けたガイドライン」が、厚生労働省からは「保育所における感染症対策ガイドライン」がそれぞれ発出され、更には別途「新しい生活様式」も示されています。しかし、対象とする年齢が高すぎて実施できなかつたり、今回の新型コロナウイルスの伝染状況に合致しなかつたり、内容的にも矛盾していたりと、園の教育・保育についてそのまま活用できる十分なものが、どの機関からも現在示されてはおりません。そこで、現状で「子どもたちの育ち」「教育・保育」と「感染拡大防止」との交差する要求の中で、園として重点を置いて実施してゆく「真明のガイドライン」をご説明いたします。

1. 前提

(1) 「こども園」という場所

こども園では子どもたちで集団を形成し、子どもたちどうしの関わり合い、先生との関わり合い、そして自然や知育教具、遊具、様々な保育環境の中で、子どもたちの学びや育ちを保障する場所です。子どもたちはこの初めての家庭以外での「社会」で他者との距離も学びます。ですから留意したとしても子どもたち自身に学生のように判断が付けられないため、「密」なおともたちとの関わり、「密」な集団、「密」な時間での生活にどうしてもならざるを得ず、いわゆる「ゼロリスク」ではいられない場所がこども園です。しかも、学校のように完全閉鎖することさえできず、エッセンシャルワーカーの皆様のお仕事を支え続けるため、常に開所し続けており、そのリスクは学校よりもとても大きなものになります。

(2) 日本小児科学会の見解について

しかしながら 5/20 に示された日本小児科学会の「小児の新型コロナウイルス感染症に関する医学的知見現状」に依れば、

- ・「COVID-19 患者の中で小児が占める割合は少なく、その殆どが家族内感染である。」
- ・「現時点までの知見からは、インフルエンザの場合と異なり COVID-19 が学校や集団保育の現場でクラスターを起こして拡がっていく可能性は低いと推定される。」

との見解が示されており、さらに「学校閉鎖は、単に子ども達の教育機会を奪うだけでなく屋外活動や社会的交流が減少すること相まって、子どもを抑うつ傾向に陥らせる」と警鐘を鳴らしています。

2. 真明の活動基準 (5/29 版)

そこで、保育と防疫の矛盾する課題のバランスを考えながら、わたしたち真明こども園が実施できる活動の範囲と基準を以下でお伝えしたいと思います。

(1) うがい手洗いの励行

まず当園としては徹底した「うがい・手洗い」を実施していきます。どこでもさわってしまう子どもたちですが、ウイルスが粘膜に触れることが感染の始まりであることは確かなため、まずは「うがい・手洗い」に努めます。



(2) マスクの着用について



マスク着用については、マスクだけでなく防護服まで装着し細心の配慮をしている病院等でもクラスターになるなど、その感染予防効果については諸説あるようですが、「飛沫感染拡大の予防」方法としては有効であることは間違いないところだと思います。そのために、現在まで職員はマスクを着用し、園児の皆さんも3歳以上は装着の協力をお願いしてきました。

① 「表情が隠れる」一顔を覆うことの子どもへの影響と職員「透明マスク」の着用

新入園や進級してすぐから、もしかしたらこれから年単位の間、保育者がひたすら顔の表情をマスクで隠し保育し続けることが、子どもたちにとってどのような影響を及ぼすのか、現状では当然研究資料さえありません。しかし、特に言葉ではなく表情で情報を得て、また初めてことばの発音を耳から覚える3歳未満児への影響については計り知れないと園では考えます。そこで、保育担当職員については、繊維性のマスクより効果は劣ることは承知ながら、飛沫の飛散を少しでも抑えられ、表情の見える「透明マスク」を着用します。

② 熱中症の危険回避

さらに、スポーツ庁から5/21に体育授業に関する「マスク不要」と「2m間隔」確保について通達がされましたが、運動だけでなくお散歩などの活動については子どもたちにもマスクの着用による熱中症の危険性が大きくなります。そこで、**運動中については2mの確保は困難ながら、間隔に充分留意しつつもマスクを外させて頂くこともあります。**

③ マスク装着の解除

くわえて、マスクの装着そのものについても、群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」で示される警戒最低レベル「段階1」になったうえで状況を見て6月末を目途に、一旦園児のマスクは外させていただきたいと考えています。但し、周囲での罹患者発生状況や、その他の伝染性疾患の流行状況によっては警戒レベルの段階に関係なく装着させて頂くこともあります。職員のマスクについては検討中ですが、その時の体調や基礎疾患の有無等の理由でマスクをしたままの事があることはご承知おきください。またマスク装着を希望されるお子さんについては、そのまま装着頂いても結構ですが、運動時には外させて頂くこともあります。

(3) 換気と服装について

密閉・密集・密接のうち、密閉だけは取り組める課題ですので、**換気については積極的に実施します。**そのため基本エアコンは入れています。室内の温度が「快適」とは言いづらい温度になることも考えられます。



そこで、夏冬ともに着替えの補充のこまめな確認をお願いしますとともに、着脱のしやすい服装での登園をお願いします。

(4) 園内消毒と保護者の皆様へのお願いについて

消毒については、室内の手に触れる部分の消毒や、使用した玩具、共用部分の消毒を実施しています。また、長時間保育で使用した玩具やテーブルなども消毒をしています。

ただし、いちばんは行動範囲の広い**大人がキャリアになることが多いので、園内に入る際は保護者の皆様も必ずアルコールで手指消毒を実施**するようお願いいたします。

(5) 生活習慣の中での行動の見直し

生活習慣の中で、何気なくとっている行動について、少しずつ見直しを実施していきます。ただし、感染拡大防止には好ましくない事であっても、子どもの発達の上で必要とおもわれることについては従来のまま実施させて頂く事もあります。

①登降園時の挨拶について

登降園時の挨拶について、現在は子どもと保育者との手つなぎでの声掛けを行ってきましたが、これを「おじぎ」に変えたいと思います。これは、時間帯によっては複数クラスの子どもたちを一斉に手つなぎでお迎え、お見送りすることとなるため、クラス間の横断的な感染発症を防ぐためです。



②非接触型体温計による検温について

学校と同じように、朝の登園時に非接触型の体温計で子どもたちの体温チェックを行います。また園内に入るすべての大人(職員・保護者・業者含む)についてもすべて検温を行います。

③ICカードによる出席管理について

タッチパネルによる登校園の入力をされている方が居ますが、**感染防止の観点から必ず IC カードでの入力をお願いします**。また、他の方と間違えて入力されている事例もありますので、IC カード以外での入力は控えてください。現在機械のそばにカードを置けるラックを手配中ですので、お迎えが変わってもカードでの入力が簡単にできるよう変更します。

④子どもたちどうしの「接触」について

リトミック、運動、競技、散歩、遊びの中で、その都度メニューについて考慮は致しますが、**そもそも体を使って遊ぶことが子どもたちの発育を支えている中で、接触は避けようがないのが実状です**。ただし、喫食や水分補給等の粘膜感染の危険がある際には必ず手洗い消毒を実施していきます。

⑤一方向の着席による教育・保育・給食について

一方向を向いて生活することは、現在の保育室の広さの問題もあり、**専用の机を発注**していますが、**現代用品で3歳以上児で実施**しています。また、くま組3歳児については2階ホールで少しでも広い空間での昼食としました。なお、配膳については既にほぼすべてのメニューを1膳ずつ提供しておりますので、大皿などからの分配についてはありません。



⑥お昼寝について

SIDS 予防のための呼吸チェックの必要もあり、現状どおり各クラス可能な範囲で間隔を取り

つつ午睡をとります。ただし、一部クラスで遊戯室や多目的室、ホール等を使用して午睡をすることもあります。

⑥お歌について

音楽は感受性を育てる大きな畑で、早いうちに種を植えてあげることがその後の幹の太さにも影響します。お歌については、ピアノの周りを囲う様に向かい合って集るようにせず、**同一方向を向いて歌いたい**と思います。



(4) プールについて

プールの利用については、現在公立小中学校でも授業実施の方向で動いているようですので、**園でも実施する予定**です。一般社団法人日本スイミング協会の報告によれば、プールで常時使用している 12%次亜塩素酸ナトリウム液が、アルコール消毒液よりも、ウイルスの不活性化速度を極端に速くできる薬剤として報告されています。当園でも塩素濃度のこまめなチェックを実施し、プール内の殺菌性を監視します。また、複数クラスでの利用は避け、短時間でもなるべく少人数での利用ができるよう工夫して、着替えやプールサイドでの待機などについて間隔を取れるよう配慮しながら実施したいと考えております。



(5) そのほかの行事について

園での行事については、子どもたちの成長の発表の場であり、子どもたち自身が成長を感じてもらえる機会になります。しかしながら、今年度は学校やほかの団体の行事の多くが、延期もしくは中止されている中で、**従来通りの開催方法は難しい**とも考えております。運動会・発表会など大きな行事は勿論、直近のお泊り保育や、夏祭りなどについても**開催方法を検討しつつ、形を変えて実施、もしくは延期や中止も考えていかざるを得ません**。

また、最初にお話したように、子どもの罹患については、ほとんどが家庭内での感染であり、さらに子どもたちの行動範囲や社会性から考えても、最初は職員や保護者などの大人が社会活動の中で罹患しているのが大半だと思われます。ですので、**大人の皆様を狭い場所で多く集める行事については慎重に検討させて頂くと同時に、子どもたちの健康管理はもちろん、保護者の方も発熱等症状があれば、ぜひお休みをして頂けるようご協力をお願い申し上げます**。

4. おねがい

以上、園としての活動について現在でわかる範囲、できる範囲でご説明をして方向を示しましたが、もちろん充分であるとは思っておりません。今後、残念ながらいつかは罹患者が出てしまうこともあり得るかとおもいますが、**たとえ誰かから「一人目」が出たとしても、皆さんが心から御見舞いを言いあえる園であってほしいと願っています**。

子どもたちはやっぱり、人と触れ合いたいし、人と関わりたいのが本心です。

「せんせー！」と飛びついてくる子どもに「密です！」と退けることはしたくありません。時には公衆衛生学的には目をしかめるようなこともあるかもしれませんが、社会的な距離感をはじめて学び育ててあげるためにも、人に対しての愛着形成を保てるためにも、園の活動にご理解を頂ければと思います。

以上 (5/29 記-変更の可能性あり)